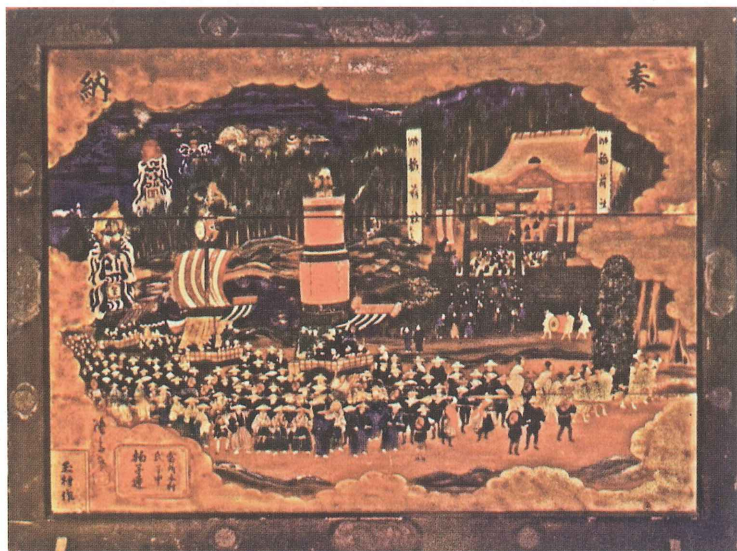


板絵着色祭礼図



〔指定年月日〕平成二年一月二四日
 〔種別〕有形民俗文化財（信仰）
 〔名称〕板絵着色祭礼図
 〔点数〕一面
 〔所有者等〕本天沼稻荷神社
 〔所在地等〕本天沼二―一四―一〇

板絵着色祭礼図

本絵馬は檜板三枚の横はぎ、横一六四cm、縦一一八cmの大画面に描かれた大絵馬で、飾金具を配した漆塗りの額で装飾している。

明治初年、山王社（千代田区）の御内殿を当社に移した時に奉納されたもので、「奉納 稻荷社」と認めた幟を立てた社殿を画き、三台の山車とそれを牽く群像、後方森越しには五台の山車を配し、当社の祭礼の状況を描いた絵馬といわれている。赤丸に「天」と染め抜いた半天を着た人物や、裱姿の武士、山車上の囃子方などが生き生きと描かれている。着色は胡粉を用いず直接施し、彩色は全体に厚くはない。

奉納者は「當村本村氏子中 拍子連」とあり、天沼本村の人々であったことが確認できる。

作者の「陸齋」については不詳である。

画面の「玉村作」は裏面の墨書「麴四玉村重右衛門」と同一人物で、額師と考えられる。黒漆塗りの幅広い重厚な額は絵馬に一段と風格をそえ、裏面の墨書「明治十三年十一月吉日」は、恐らく額を仕上げた時のもので絵馬の制作年代もこの頃と考えられる。

祭礼の情景を描いた区内唯一の絵馬であるとともに、明治初年の信仰を知る上で、また、絵師、額師名の記されたものとして貴重なものである。

【文化財所在地】

